

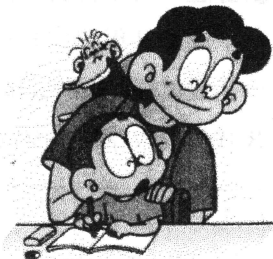
- 自律** 目標に向かって自分自身を律する
感謝 思いやりや感謝の気持ちをもつ
貢献 地域社会に貢献する態度を養う
創造 既成の知識から新たな発想を生み出す



都城市教育委員会(精励賞)表彰式

13日(月)都城市総合文化ホールにて、令和4年度都城市教育委員会【精励賞】表彰式がありました。都城市内小中学校から、善行部門個人21、善行部門団体24、文化部門個人2、文化部門団体3が表彰されました。

本校からは、文化部門個人の部で古市優梨彩さんが表彰されました。行事やイベントなどで意欲的に参加する姿勢や、令和4年度宮崎県中学校英語暗唱・弁論大会において、暗唱の部1位(最優秀賞)を受賞したことが評価されました。おめでとうございます。



都城市PRキャラクター
兼都城市PR部長ぼんくん

立志式

10日(金)高城地区生涯学習センターで立志式がありました。

立志式は、1年の中での「節目」ではなく、人生の中で「節目」をつける儀式と考えていいと思います。「七五三」や「成人式」などと同じですが、これらの儀式は、「お陰様でここまで無事に育ちました」と成長を感謝し、神様に報告する儀式でもあったといえます。

昔は15歳ぐらいで、主に武士が「元服」という大人になる儀式を行っていました。「元服」は、周りの人々から大人として一人前に扱われる節目と同時に、一人の大人としての責任のとり方や心構えをつくったものです。

男子は家を継ぐために気持ちを切り替える必要がありましたし、女子も結婚する年齢が早く、子を産み、育て、家を守る責任を自覚することが必要だったのでしょう。

幕末の時代、橋本左内という人が、「啓発録」という本を書いて、「稚心去れ」という言葉を残しました。「稚心」とは、「幼稚な心」です。「今から先は簡単に甘えてはいけない」と厳しく自分を戒めているわけです。その時、橋本は元服を迎えた15歳でした。

高城中学校の皆さんには、この立志式を節目として、自分の「志」を立て、大人としての責任を自覚し、自分の力で人生を切り拓く人に成長して欲しいと願っています。

